

<第93回調査>

2017年2月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年2月14日(火)13:00~2017年2月21日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は898件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

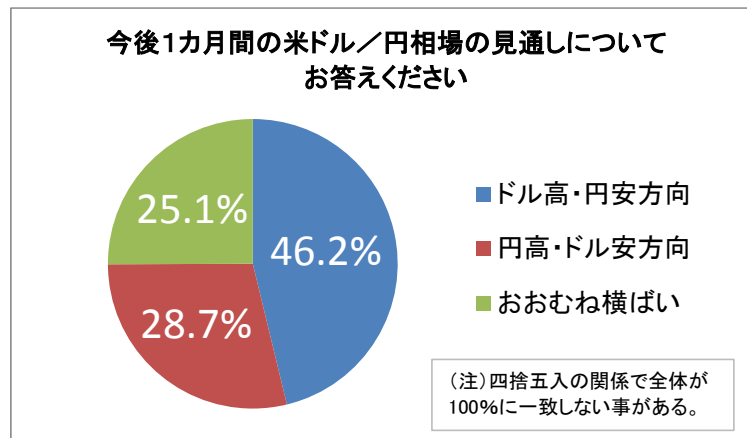
Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第93回調査結果略報：トランプリスクを意識も米ドル強気に転換】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

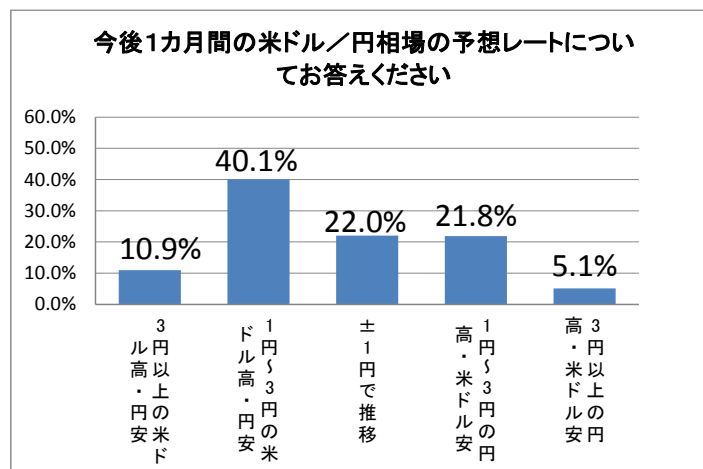
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が46.2%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は28.7%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△17.5%ポイントとなり、前回の▼18.8%から上昇してプラス圏を回復した。このところの米ドル/円予想DIは、プラス（強気）とマイナス（弱気）の間を比較的大きく揺れ動いている。昨年終盤に見られた「トランプ相場」が一服して以来、方向間が定まらない相場展開と同様に、個人投資家の相場見通しも定まりにくいようだ。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が40.1%と最も多く、「±1円で推移(22.0%)」、「1円～3円の円高・米ドル安(21.8%)」「3円以上の米ドル高・円安(10.9%)」、「3円以上の円高・米ドル安(5.1%)」、と続いた。ヒストグラムの形状はやや米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的だ。ただ、前回とは大きく形状が変化しており、個人投資家の相場観が揺れている事がここからも伺える。なお、前回は「1円～3円の円高・米ドル安(31.6%)」が最も多く「±1円で推移(8.9%)」が最も少なかった。

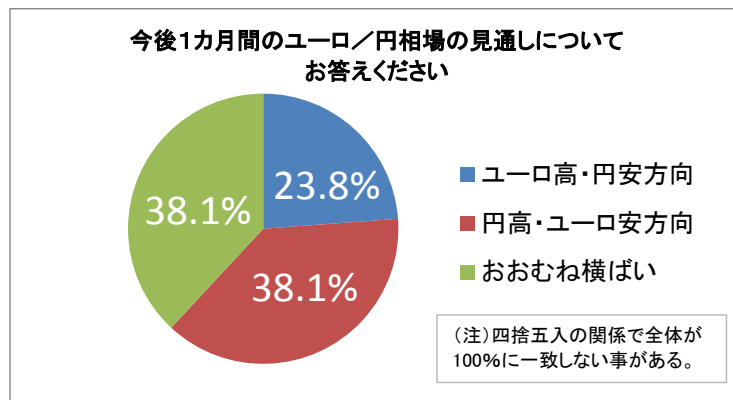


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

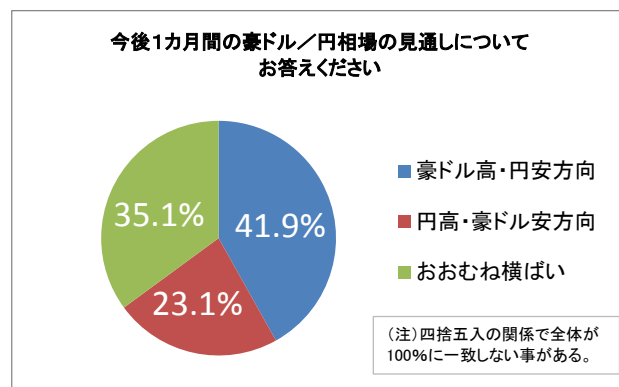
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が23.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が38.1%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼14.3%ポイントとなり、マイナス幅は縮小したものの2カ月連続のマイナスDIとなった。調査期間中のユーロ/円相場は、仏大統領選において、反ユーロを掲げる国民戦線のルペン党首の支持率が上昇した事などを背景に119円台に差し込む場面があった。今年は仏大統領選のほか、オランダやドイツなどで総選挙が行なわれる。そうした「政治リスク」が個人投資家のユーロ弱気見通しに繋がっている事は想像に難くない。過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が41.9%であったのに対し、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合は23.1%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は△18.8%ポイントとなり、2カ月ぶりにプラス圏を回復した。調査期間中の豪ドル/円相場は、一時約14カ月ぶりの高値(88.177円)まで上昇したが、直後に急失速するなど、やや不安定な動きとなった。そうした中にも個人投資家の見通しが豪ドル強気予想に戻ったのが印象的だ。原油をはじめとする資源価格が安定している事や、それに伴い中国市場が落ち着いている事が豪ドル強気見通しの背景にあるものと推測される。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

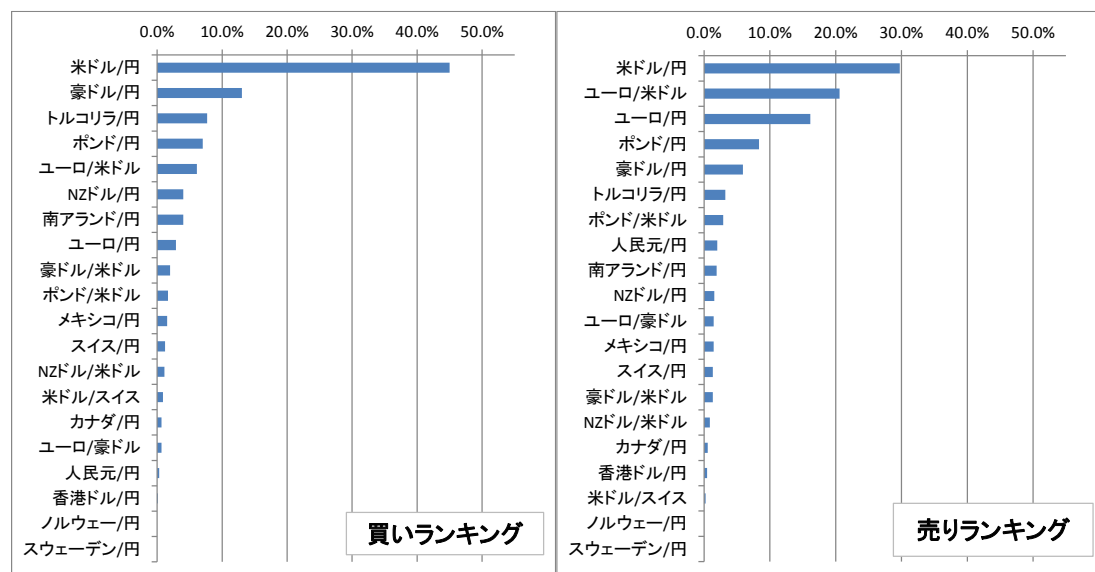
Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が45.0%の回答割合を集めて1位であった。以下、豪ドル/円(13.0%)、トルコリラ/円(7.7%)、ポンド/円(7.0%)、ユーロ/ドル(6.1%)の順に続き、今回も米ドル/円の圧勝に終わった。なお、米ドル/円は連続優勝記録を53カ月まで伸ばしており、4年半近く王座を守り続ける「絶対王者」的な存在となっている。

一方、「売り」で注目の通貨ペアでも米ドル/円(29.7%)が1位となり、回答割合は前回の43.0%から低下したが、4カ月連続で首位をキープした。以下、ユーロ/ドル(20.6%)、ユーロ/円(16.1%)、ポンド/円(8.4%)、豪ドル/円(5.9%)と続いた。

今回も、個人投資家の興味と関心が良くも悪くも米ドル/円に集中している様子が見て取れた。なお、社団法人金融先物取引業協会によると、2017年1月の店頭FX市場(53社合計)における総売買高は約561兆4390億円であったが、そのうち米ドル/円が482兆5000億円と約85%を占めている。2月の取引も米ドル/円に集中する可能性が高そうだ。

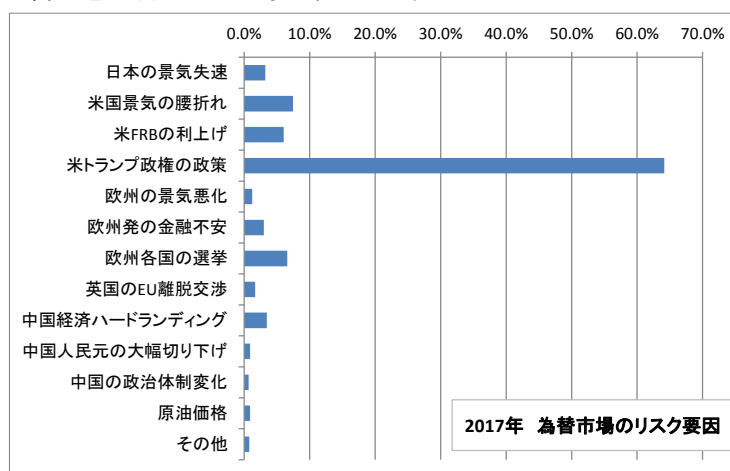


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

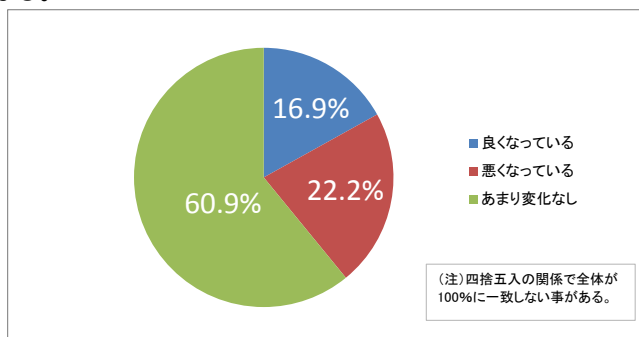
問6: 為替市場における2017年のリスク要因として、最も重大だと思われるものは何でしょうか？（ひとつだけ）また、下のコメント欄に、その理由をお書きください。

今回の特別質問として、「為替市場における2017年のリスク要因として、最も重大だと思われるものは何でしょうか？（ひとつだけ）」と尋ねたところ、「米トランプ政権の政策」が64.1%と圧倒的多数を占めた。以下、「米国景気の腰折れ(7.5%)」、「欧州各国の選挙(6.6%)」、「米FRBの利上げ(6.0%)」と続いた。なお、「米トランプ政権の政策」をリスク要因とした理由についてのコメントとして「大統領発言への不安」「何を言い出すか予想できない」などが挙げられており、政策に対する不透明感よりも不規則発言を不安視する声が多かった。そのほか、昨年同時期の調査で27.4%と最も多かった「中国経済のハードランディング」については、今回の調査では僅か3.5%にとどまった。「中国人民元大幅切り下げ」についても昨年の6.9%から0.9%に低下しており、個人投資家の間で「チャイナリスク」への警戒感が薄れている事もわかった。



問7: あなた個人の「景況感」はいかがですか？（ひとつだけ）

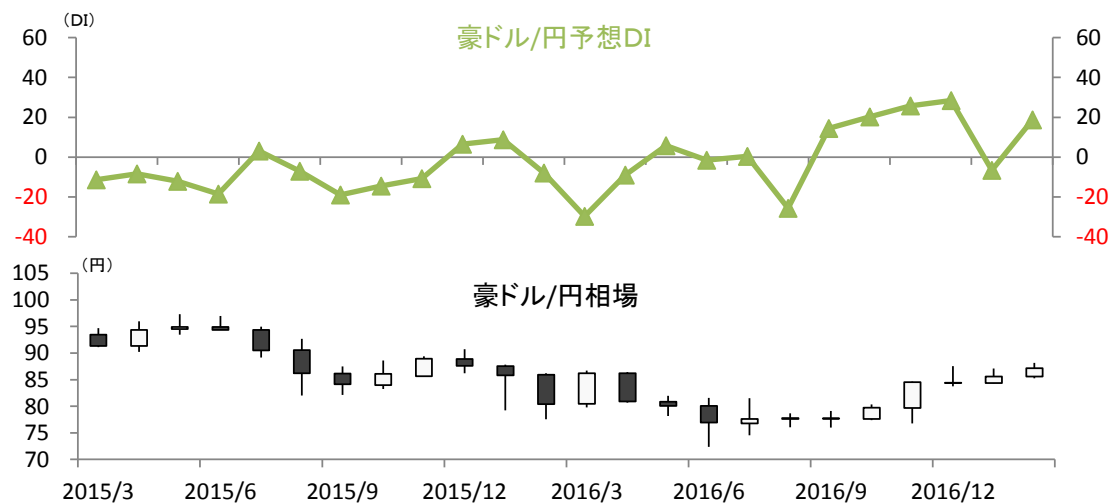
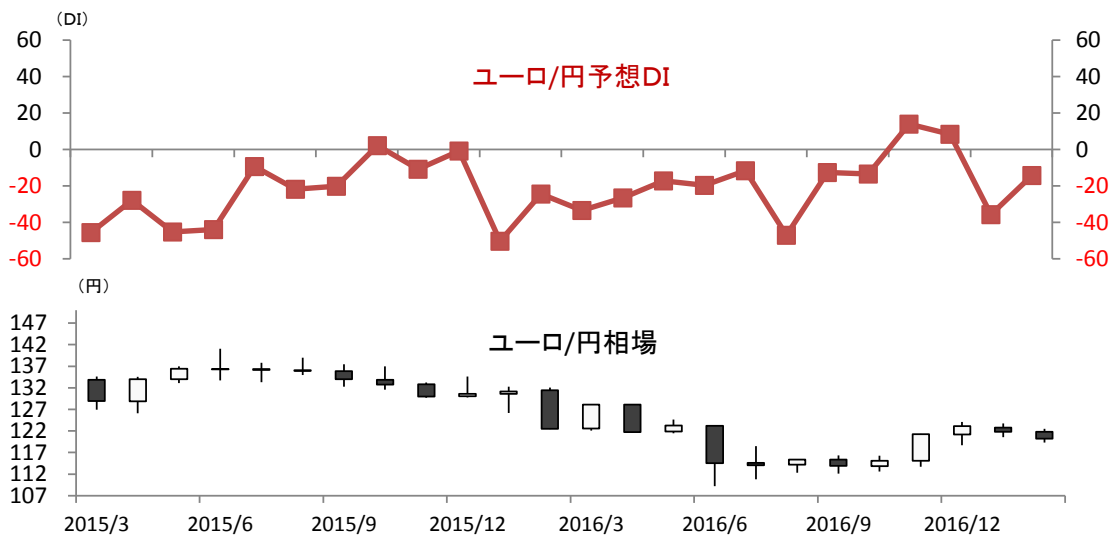
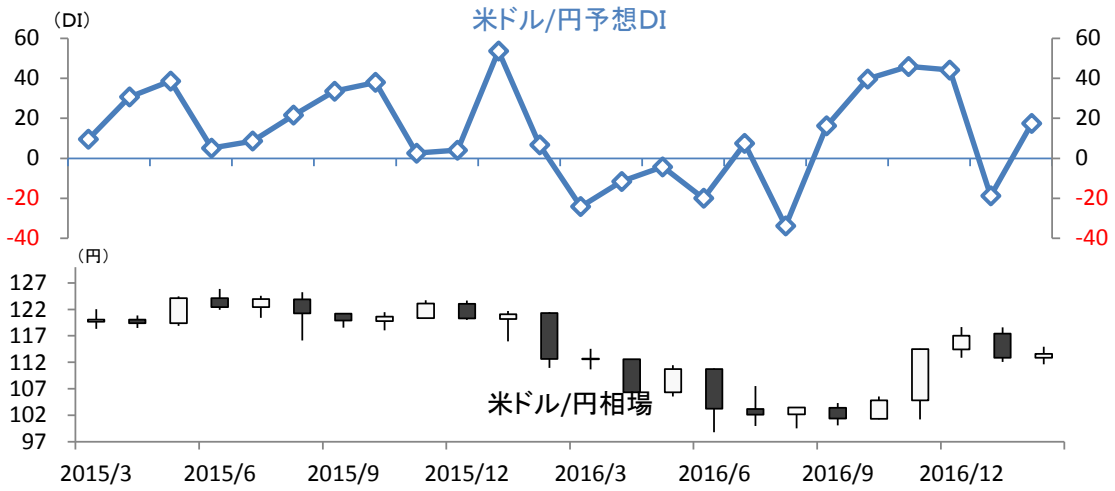
今回のもうひとつの特別質問項目として、「あなた個人の『景況感』はいかがですか？（ひとつだけ）」と尋ねたところ、「良くなっている」が16.9%、「悪くなっている」が22.2%、「あまり変化なし」が60.9%という結果であった。昨年11月の第90回調査で同じ質問をした際は、それぞれ14.2%、26.8%、58.9%であり、回答割合に目立った変化はなかった。トランプ米大統領が誕生して以降、市場環境は大きく様変わりした印象が強いが、そうした動きが個人投資家の景況感にはほとんど影響しなかった事になる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第93回目となりました。調査開始から7年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2015年	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1	
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5	
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1	
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0	
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9	
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4	
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8	
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6	
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8	
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9	
	2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
		2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
3月		33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8	
4月		30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5	
5月		40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4	
6月		26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7	
7月		48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4	
8月		26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3	
9月		34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0	
10月		57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3	
11月		65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8	
12月		64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4	
2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6	
	2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com